

福岡ロジテック 永山浩二社長

【福岡】「大手港湾運送事業者の北九州市にある支店に就職したのが業界に入ったきっかけだった」と話すのは、福岡ロジテック（粕屋郡宇美町）の永山浩二社長。同支店に10年間勤めたという永山社長は、鋼材を扱う現場で、クレーンや玉掛けなどの作業に携わっていたという。

地元の運送会社に転職した同社長は、1年後に同社の福岡営業所の所長として、北九州市から福岡市にやって

きた。当時、同社長が拡大に力を注いだ。その結果、2年定らずで、車両は6台から7倍近い40台へ、売り上げは月間700万円から9倍近い6000万円へと増えた。

しかし、会社は主要荷主から解約された影響で立ちいかなくなり、ついには倒産してしまった。当然、同営業所も継続できなくなった。しかし、取引先などの周囲の協力もあり、同社長は一念発起して独立の道を選ぶ。

「まず、会社は主要荷主から解約された影響で立ちいかなくなり、ついには倒産してしまった。当然、同営業所も継続できなくなった。しかし、取引先などの周囲の協力もあり、同社長は一念発起して独立の道を選ぶ。」

帰り車占有率1位めざす

どん底スタートから逆転

「まず、会社は主要荷主から解約された影響で立ちいかなくなり、ついには倒産してしまった。当然、同営業所も継続できなくなった。しかし、取引先などの周囲の協力もあり、同社長は一念発起して独立の道を選ぶ。」



「まずは年商30億円を突破していきたい」と話す

「まず、会社は主要荷主から解約された影響で立ちいかなくなり、ついには倒産してしまった。当然、同営業所も継続できなくなった。しかし、取引先などの周囲の協力もあり、同社長は一念発起して独立の道を選ぶ。」

(高田直樹)